

はじめに

本校では、活用力を高める授業づくりをするにあたり、学習指導要領、県から示された「活用する力を高めるための授業改善」の具体例や全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、次のような視点をもって取り組んだ。

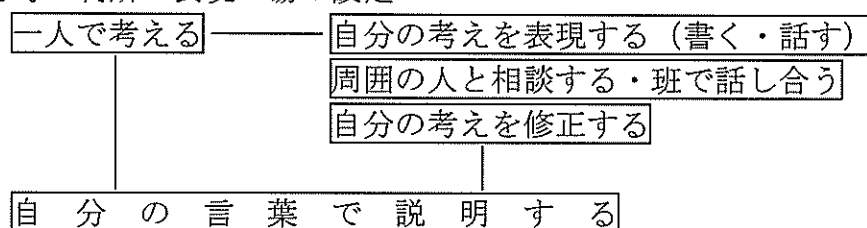
①主眼は、生徒が表現する力の育成（付けたい力は、自分の言葉で説明する力）

「～の活動をとおして、～を説明することができる。」

②考えたくなる発問・答えたくなる発問の工夫

（類推する、予想する、比べるなどの活動等）

③思考・判断・表現の場の設定



④日常生活と結びつけて考えられる手だての工夫

⑤評価指標（発問に対する生徒の反応を予想し、評価指標を定める）

⑥まとめとして振り返りと定着度の確かめ

・その1時間で、わかったこととわからなかったことを明確にする。

・生徒同士で確認ができる場面も仕組む。

その一例を以下に紹介する。

国語科学習指導案

指導者 末岡 暁絵

1 教材 いにしえの心と語らう「論語」から（光村図書3年生）

2 学習のとらえ方

(1) 4月に実施された全国学力学習状況調査の結果から、まず「①聞き慣れない、使い慣れない語句に弱い」ということがわかった。しかし、この傾向は以前からあり、1年の2月に実施したCRTで、他の4項目に比べて「言語事項」だけ高くなかった（全国比プラス1）。2年の同時期に実施の同観点は全国比プラス22であった。2年時の問題は文法事項など既習の確認問題で、生徒は答えやすかったようだが、1年時の問題や今回の学力調査を振り返ると慣れていない言語に関する問題に苦手意識があることがわかる。そしてもう一つ「②複数の条件を満たす答え方が苦手である」ということが課題として見えてきた。普段の読解問題でも、問題文をよく読んでいなかったり、1つのことに傾注しすぎて他のことが抜けていたりする生徒が多い。

本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多く、日頃の授業でも比較的意見が出る方である。しかし、ひらめきで反応して理由が言えなかったり、聞き慣れない言葉が出てくると興味が薄れたりすることがある。馴染みのない古語で書かれた古典に苦手意識を抱いている生徒もいる。知らないことを類推する力が弱く、複雑なことに取り組むことを苦手としている。

(2) 「論語」は、中国の孔子の言行および門人や当時の人との問答を中心に、孔子の死後に編集され、成立したものである。日本に最初に伝来した漢籍といわれ、日本人の

ものの考え方（倫理、思想、学問）に大きな影響を与えてきた。中学3年生のこの時期、生徒たちは自分の将来について考え、悩みつつある。そのような生徒たちに、孔子の言葉が人として生きていくうえで大切なことを教えてくれる。何千年も昔に書かれた「論語」は、現代にも通じる教訓でもある。そして、孔子の生き方、ものの考え方を捉えるとともに、自分のこととして考え自分の言葉で捉え直すことのできる教材である。

また、「論語」は漢文独特の文体で、聞き慣れない言葉も使われている。漢字や熟語、文脈から判断しながら読まなければならない。日本の伝統的な言語文化の中心を担ってきた和歌とその流れから生まれた俳諧を学習した古典学習の集大成として、馴染みのない語句を予想しながら読むのに適した教材だと考える。

- (3) 今回の授業では、まず課題①「聞き慣れない、使い慣れない語句に弱い」ことに対応する力をつけるために、文脈や現代語訳から漢字を予想することを設定した。馴染みのない語句が出てくるため、どうしても自分で考えることができなければ他者の意見を聞くことで思考を広げさせたい。また、班で意見を出す際には、相手の意見を受け止めたうえで発言できるよう事前に確認する。

そして、後半では課題②「複数の条件を満たす答え方が苦手である」ことを少しでも克服できるような活動として、孔子の教えである「仁」を自分の言葉で説明することを設定した。孔子の教えと対比すること、自分の考えの根拠や具体例を入れることなどの複数の条件にそって書くことをねらう。

なお、本校では国語科における活用力を「自分の考えを、自分の言葉で表現できること」と考えている。本時でも自分の言葉で説明する（話す、書く）場面を設定することで、活用力を高め、自分の言葉で表現することのできる生徒を育てたい。

3 単元の学習計画（全12時間）

教材	時数	主な学習活動
音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序	1	・冒頭部を音読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。 ・和歌が植物の葉と種にたとえられていることを捉える。
君待つと 万葉・古今・新古今	5	・三大和歌集の特徴をまとめる。 ・和歌のリズムや言葉の響きを感じながら音読する。 ・作者の思いや描かれている情景を読み取る。 ・読んだ歌の中から1つ選び、鑑賞文を書く。
夏草 「おくのほそ道」から	4	・地の文と俳句の構成に注意しながら朗読する。 ・芭蕉の旅についての考えや、旅の途中で見たもの感じたことを読み取る。
学びて時にこれを習ふ 「論語」から (本時：2/2)	2	・5つの章句を朗読し、孔子の考え方にふれる。 ・「仁」に関する句から孔子の教えを読み解き、自分の意見をもつ。(本時)

4 本時案

- (1) 単元名 いにしえの心と語らう 「論語」から
- (2) 主眼 孔子の教えについて話し合ったり、原文を読み取ったりする活動を通して、「仁」の意味を自分の言葉で説明することができる。
- (3) 準備 ワークシート、ホワイトボード、論語の拡大コピー

(4) 展開

過程	学習活動・活動内容 (活活用力)	指導上の留意点 (☆評価)
つかむ	1 本時の学習内容を知る。 ・ 学習課題の把握	○ 音読することで前時の内容を思い出させ、孔子の教えは現代にも通じることを伝える。
／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">【 】にあてはまる漢字は何か。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ＊孔子の最も基本となる教えの漢字一字 ・顔淵【 】を問ふ。子曰はく「克己復礼為【 】。」 ・樊遲【 】を問ふ。子曰はく「愛人。」 ・仲弓【 】を問ふ。子曰はく「己所不欲勿施於人。」 </div>	○ 現代語訳を参考にしたり、他者の意見を聞いたりすることで、一人1意見は出させる。
広げる	2 【 】に当てはまる漢字1字を予想する。 ・ 意見(漢字)とその根拠 ・ 班での話し合い ・ ホワイトボードへの記入 ・ 全体へ発表	○ 班の意見は無理に1つにまとめず他者の意見を聞くことで思考を広げさせる。 ☆ 自分の意見と根拠を明らかにして話し他者の意見に耳を傾けることができたか。〔話す・聞く〕
／	3 孔子の言う「仁」を読解する。 ・ 弟子達の問いに対する答え 「自分がしてほしくないことは、人にもするな」 ・ 漢字「仁」の成り立ちの解釈	○ 仲弓が仁を行う方法を尋ねたことを補足し孔子の言葉を現代語で捉えさせたり漢字の成り立ちを伝えたりすることで、次の課題へのヒントにする。
深める	4 「仁」を説明する。活 ・ 孔子の教えとの対比 ・ 自分の考えの根拠 ・ 具体例の挿入	○ 対比の仕方が分からない場合には同感(賛成)か否かで書かせる。 ☆ 孔子の教えと対比し、具体例を用いて自分の考えが説明できたか。〔書く〕
／	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> A：仁とは、人に対して誠実に対応することだと思います。心を込めるときに、誠心誠意という言葉を使います。 孔子の言う「愛すること」でもよいですが、心とことばが一致している「誠」の字を使う方が、より心がこもっていると思います。 B：仁とは、「思いやり」だと思います。なぜなら、人と話すときに相手に失礼のない言葉を選んだり、自分がしてほしくないことを相手にもしないということは、常に相手のことを考えているからです。 C：仁とは、孔子が言っていることと同じです。僕もそう思うからです。 </div>	
まとめる	5 本時の学習を振り返る。 ・ 数名分の原稿紹介	○ 生徒数名分の原稿を紹介することで、多様な考えにふれさせる。また、課題どおりの書き方になっているかの確認をさせる。

※ 上のA B Cは評価指標に基づく表現例

5 本時の評価指標

観 点	話すこと・聞くこと	書くこと
指導事項 (学習指導 要領)	・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり表現に生かしたりすること。 (1)－ウ	・論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。(1)－イ
本時の学習 活動の評価 指標	【 】に当てはまる漢字とその根拠を伝え、他者の意見に耳を傾けることができる。	「仁」を自分の言葉で説明できる。
A	・自分が考えた漢字1字とその理由を述べることができ、他者の意見にも応答できる。 ・漢字が1つに絞れず複数あるが、考えた理由を述べるができる。 ・他者の意見に耳を傾け、自分が発言するときに、つながるように意見を述べるができる。	・「仁」の漢字の成り立ちをふまえて解釈し、自分の言葉で表現できている。 ・「誠実・忠実・真心・優しさ」など、文脈から判断して、自分なりの言葉で表し、その理由が述べられている。
B	・自分が考えた漢字を紹介することができる。 ・他者の意見を聞きながら、自分の意見を出すことができる。	・孔子同様「思いやり」を用いても、具体例を用いて表現できている。 ・「己の欲せざるところ…」「剛毅木訥…」の句を用いても、孔子の言葉(現代語訳)を丸写しせず、「自分がしてほしいこと」「口数が少ないこと」のように、自分で表現する言葉を選んでいる。
C	・自分の意見も出せないし、他者の述べた意見にも反応することができない。	・「仁」の漢字の成り立ちが理解できず、文脈からかけ離れた言葉でとらえている。 ・自分の言葉は無く、孔子の言葉を列挙しているだけ。

6 授業の実際

(1)発問1「【 】にあてはまる漢字は何か。」について、各班からの意見(1字と根拠)

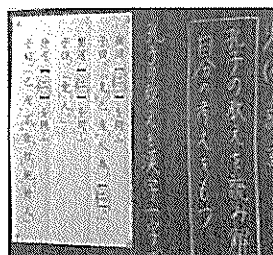
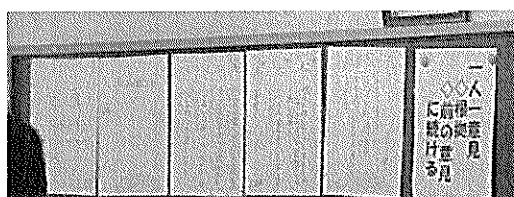
1班 己：自分に関わる 生：人生 思：思いやり 心：感情

2班 仁：他人につくす 心：相手のことを考えている 人：直感

3班 優：心遣い 心：思いやり 守：守るもの 救：1つめ3つめの文から

4班 人：人に共通する 論：論語

5班 真：真心 心：何をするにも心が大切



(2) 発問2「自分の言葉で『仁』を説明するとどうなるか。」の内容と、生徒の意見

◎あなたの考える「仁」とは？

孔子は「仁」について弟子達に説くときに、それぞれの人柄や状況に応じて答えました。「仁＝人と人との関係において最も大切なこと」をあなたならどのように説明しますか。次の条件に当てはめて書きなさい。

《条件1》孔子の教えと自分の考えを対比すること。(例えば……孔子の教えの特徴をふまえながら書く。共感する部分(共感できない部分)を取り上げて書く)

《条件2》なぜそのように考えたのか、根拠を述べること。

《条件3》具体例を用いること

評価Bにした生徒の意見文

仁とは、人が人を助けることで、人間関係に最も大切なこと。孔子が言っていた「自分がしてほしいくないことは、人にはするな」にすごく共感した。人は困っているときに、一人では何もできないから、困っている人がいたら助け、自分がされて嫌なことは、人にもしないことが大切だと思った。例えば、いじめ。自分がされたら絶対嫌だ。だから絶対しない。お年寄りが困っていたら助ける。だから、仁とは、人を助けることだ。

評価Aにした生徒の意見文

仁とは、どんな人でも尊敬することだと思う。理由は、他人のために尽くすには、その人を尊重しなければできないと思ったから。プリントの2つ目の文で、孔子は「人を愛す」と言っているが、それを「人を尊敬する」ことだと思う。具体的に言うと、嫌いな人に尽くすことは難しいと思う。

だから、まずいい所を探して、その人を人として好きになれば、その人に尽くせると思うので、どんな人でも尊敬することが、人と人との関係において最も大切だと思う。

7 研究協議での意見と考察

(1) 「活用力に向けての手だて」として出された意見

- ①課題、内容の工夫(やや高い難易度の課題)の提示
- ②明確な発問、指示(支援が必要な生徒への手だて)
- ③ねらいの焦点化(深く考える課題をしぼる)
- ④考える時間の確保
- ⑤生徒の意見の共有化(個→グループ→全体へ)
- ⑥板書の構造化(拡大掲示、ホワイトボード、付箋の活用)
- ⑦生徒間、教師との信頼関係の構築(生徒の発言に対するフォローや賞賛等の評価)



(2) 研究協議で出された意見についての考察

研究協議で出された意見を網羅するために、指導案の変更版を3パターン考えた。

その1 家庭学習との連動により、時間を確保する。

主発問1の「【 】にあてはまる漢字1字を考える」ことを家庭学習にし、前時の復習を省いて、考えてきた漢字の紹介から授業に入る。そうすることで、後半に余裕ができ、意見文を書く時間が確保できる。

その2 類推する力を高めることに主眼をおく。(本案を2時間扱いにする)

主発問1の「【 】にあてはまる漢字1字を考える」ことに焦点化し、自分が考えた漢字をグループで紹介し、他者の意見を聞くことで考えを広げる。さらに、全体

につなげることで生徒の意見の共有化を図る。考えた漢字を【 】に入れて読み、どの文も納得のいく内容になるか、確認する時間もとれる。

【その3】 条件に当てはめて自分の言葉で説明することに主眼をおく。

主発問2の「自分の言葉で『仁』を説明するとどうなるか」に焦点化し、既に「仁」の文字を入れた文を示し、自分の考えを深める時間を確保する。書けない（考えられない）生徒へは書き方の例を提示したり、早く書けた生徒の文章を紹介し評価（よく書けている点への賞賛や不足部分のフォロー等）したりすることで、支援する。

8 成果と課題

(1) 授業後のアンケートから

授業後に自由記述でのアンケートを実施したところ、以下のような傾向がみられた。

○「類推することは難しかった」と答えた中で

→理解できるとおもしろい。

文脈から考えることができてよかった。

と答えた生徒 約25%

→話し合い活動で意見を広げることができた。

と答えた生徒 約50%

○「条件作文を書くことは難しかった」と答えた中で

→難しいが、じっくり考えた。書けたら嬉しい。

と答えた生徒 約50%

○話し合い活動は、

→自分の意見を広げることができて良かった。

と答えた生徒 約40%

(2) 1・2学期の授業評価アンケートから（ABC3段階評価でA評価の%）

○先生の話や友達の意見によって考えを深めることができましたか。

1学期69.6%→2学期75.7% 6.1%上昇 【↑】

○作文指導は適切に行われていましたか。

1学期78.3%→2学期80.0% 1.7%上昇 【↑】

○自分の考えを他者に伝えることができましたか。

1学期24.6%→2学期24.3% 【→】

○自分の考えを言葉にして書き表すことができましたか。

1学期39.1%→2学期32.9% 6.2%減少 【↓】

(3) 「仁」についての説明（意見文）の評価（3年生73人分）

*評価指標にもとづいたABC3段階評価

A	33.3%	B	48.6%	C	未提出
---	-------	---	-------	---	-----

C 5.6% 未提出 12.5%

授業後の生徒の感想に「まず自分で考え、次に班で考えて最後にクラス全体で考えることで意見が深まったと思う。他者の意見を聞いて、自分の意見も述べることは社会に出てから役に立つ!」とあった。この言葉どおり、これから社会に出ていく生徒たちにとって、「自分の言葉で表現する力」をつけることが重要である。そのために、多少苦手意識をもつ課題に取り組みせたい。今回の授業のように“できた”という達成感を味わえば、その後の伸びにつながる。しかし、“書けない”生徒が2割近くいる現状を受けとめ、考える時間の確保や書く（話す）ヒントを与えながら支援していき、達成率を高めていきたい。